令和6年度第1回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議 議事要録

◆日時 令和6年7月18日(木) 19:00~20:30

◆会場 いせシティプラザ2階 多目的ホール

◆出席委員

世古口 明人委員、松月 菜生委員、福村 伝史委員、中村 基記委員、横田 由美委員、齋藤 平委員、北出 学委員、鈴村 亜希子委員、林 雅哉委員、秋山 則子委員、山川 一子委員

◆欠席委員

江崎 徹委員、北村 和也委員、安藤 大作委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局次長、企画調整課長、同副参事、同主事2名、デジタル政策課長】

環境生活部【市民交流課長】

教育委員会【学校教育課長、教育研究所長】

健康福祉部【福祉総合支援センター副参事、健康課長、保育課長、子育て応援課長、高齢・障がい福祉課長】

産業観光部【参事兼商工労政課長、同課副参事、参事兼農林水産課長、観光振興課長、観光誘客課長】

都市整備部【参事兼都市計画課長、住宅政策課長、交通政策課長】

◆傍聴者 なし

◆結果概要

(1) 正副会長の選出

会長：齋藤 平委員、副会長：山川 一子委員

(2) 諮問

(3) 第2期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について

・各委員からの意見等及び市の回答は次のとおり。

基本目標① 安定した雇用を創出する

・具体的施策に『企業誘致の推進』とあるが、伊勢市内には工場用地がないかと思うがどのように考えているのか。

⇒開発できる場所はほとんどなく、一定規模の用地を確保することは難しいのが現状。そのため、大きな敷地を必要としない業種の誘致や市の所有している土地に限らず三重県との連携、また、バランスを見ながら農地など違う用途で使っている土地の開発等によって用地の確保に取り組んでいきたい。

・主に三重県の土地かと思うが、朝熊山麓の開発を進めて欲しいがどのような状況か。

⇒主に三重県の土地であることや傾斜地であるため開発がしにくい場所である。企業誘致のための用地については三重県と協議を進めながら確保に努めていきたい。

・市内製造業従事者数の目標は達成しているが税収に反映されているか。

⇒就業者数が増えれば税収が増えるといった単純な相関関係ではないため税収に反映されているかの判断は難しい。庁内的には税務部署と連携を取りながら、業種別に整理するなど実態把握に努めているためご理解いただきたい。

- ・企業は働き手の確保に苦勞している中で、新規創業者数の目標値の達成は難しいのではないかと。
⇒新卒の3年以内の離職率が40%程度と言われている中、離職しても伊勢に残ってもらうために創業も含めていろいろな可能性を探しながら各種事業を実施しているためご理解いただきたい。

基本目標② 伊勢への新しいひとの流れをつくる

- ・人口減少が進む中で伊勢への新しい人の流れをつくるにはインバウンド戦略が欠かせない。行政だけでなく観光協会や商工会議所等の関係機関と連携して、全市的なプラットフォームを作りながら戦略を進めていく必要があると考える。そういったことを次の計画に盛り込みながら、観光戦略を進めていってほしい。

⇒観光振興基本計画を定めて観光の推進を図っているところであるが、次の改定時にはいただいたご意見を踏まえながら、今後の方向性を見出していきたい。また、インバウンドに関しては、特徴でもある長期滞在のことを考えながら、伊勢志摩地域として高付加価値なインバウンド観光地づくりのモデル観光地として観光庁の採択を受けていることもあるため、伊勢市単独でやっていくのか広域でやっていくのか周辺の市町とも調整を図りながら推進していきたい。

- ・夜間の交通手段がなく外で飲食したくても出来ない人もいると思う。ライドシェアなどにより、そういう潜在的なマーケットも掘り起こせるといいと思う。

⇒夜間の交通手段については利用者側はタクシーがないという一方、タクシー会社は走らせていても利用されないという意見があり、令和5年度に需給バランスの調査を三重県協力のもと実施した。結果は2から3割程度足りていないということであったため、その結果を踏まえて国のライドシェアの制度も注視しながら、もう少し広げるような形で実施できないか関係者と調整をしている。

- ・三重県内の自治体の中で移住したい市町として伊勢市が一番だと聞いたがなにか要因はあるのか。
⇒要因は定かではないが、県下の移住者の状況を見ると伊勢志摩地域への移住者も増加傾向にある。東京圏の移住セミナーに行っても伊勢志摩は認知されており、ネームバリューがあるので興味を持ってもらえる状況である。

- ・伊勢市への移住者は高齢者か若い人かどちらが多いのか。
⇒相談者の年齢層はまちまちだが、市が移住者としてカウントしているのは市の移住制度を活用した方のため、現役で働いている世代が多い印象である。

基本目標 ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・出会い・結婚への支援についてKPIは相談件数となっているが、結果としてカップル数や成婚数を指標とした方がいいと思う。その辺りの数値がわかるのであれば教えて欲しい。

⇒カップル数についてはイベント終了後、メール等で確認しており令和5年度は22組である。成婚については任意での報告となっており平成27年度の取り組み開始以降、6組の報告がある。カップル数は平成27年度以降、128組である。今後も、出会いの創出という部分で取り組んでい

く。

- ・他市町ではマッチングアプリを活用しているといった話も聞く。若い人たちはマッチングアプリを利用している人も多いようなので、そういったことも参考にするといいと思う。
⇒出会い支援センターは令和5年度から三重県と同じ場所で曜日を替えて運営している。三重県も人口減少対策に力を入れているところであり、連携やすみ分けをしながら取り組みを進めていく。
- ・駅前子育て支援センターもできたが、子育て支援についてのアンケートで「子育てしやすいまちだ」と思う人の割合は下がっている。なぜかと考えたときに、支える側の人材確保が重要だと思う。また、支援センターを作るなどのハード整備もいいが、どういったプログラムを組むかといったソフト面もしっかりやらないと、子育てしやすいまちとは思われないと思う。
⇒「子育てしやすいまちだ」と思う人の割合は、実際に子育てをしている保護者の方に限ったアンケートでは7割ほどという結果がでている。本計画の指標は子育てをしていない方も対象となっており、「どちらともいえない」の割合が約5割ある。実施している様々な子育て支援施策をしっかりとしてPRし、子育てしやすいまちだと思ってもらえるようにしていきたい。
- ・子育て支援施策は周辺市町と比較されることが多く、小さい市町ほど思い切った施策をしている印象がある。伊勢市の周辺市町でも保育料無料など思い切った施策をしている市町があるため、違う点でPRしていく必要があると思う。明石市のようにメディアを上手く使って、目玉になるような施策を打ち出していくといいと思う。
⇒伊勢市独自の施策もいろいろとあるため、明石市など他の自治体を参考にしながら、積極的に伊勢市の魅力を発信していきたい。
- ・伊勢市は病児保育があり恵まれているが病床数は多くはないため、子が病気の際は仕事を休めるような環境を企業に作ってほしいので、ぜひ企業と連携をしてほしい。
- ・ライフステージによってはフルタイムの勤務が難しい方もいると思うので、柔軟な働き方を推進することで働き手の確保にもつながると思う。個人的には、伊勢市は子育てしやすいまちだと思っていたので指標が低くて驚いた。
- ・企業経営者としては、休みやすい雰囲気づくりや柔軟な勤務形態の推進はそう難しいものではないと思っている。コロナ禍では社内託児を実施し非常に好評で、他者の仕事への影響も特になかった。企業が柔軟な考え方を持ってもらえたらと思う。

基本目標 ④暮らしやすい生活圏をつくる

- ・自治会に加入しない人が増えているため、一人でも多くの人に加入してもらえたらと思う。
⇒自治会の加入率は減少傾向にある。総連合自治会と連携しながら加入啓発をしたり、転入時に自治会への加入案内をする等、継続して力を入れていきたい。
- ・PTA活動も自治会と同じで、積極的な人と消極的な人で二極化しているように思うものの、それでも、みんな何かしらの繋がりは持ちたいという気持ちはあると思う。PTAや自治会など旧来型のコミュニティではなく新しい繋がりを求めていると思うので、その辺をリサーチすると違ったコミュニティのあり方が見えてくるのではないかなと思う。
⇒つながり方が多様化しているのも承知している。ふるさと未来づくりとして自分たちでまちをつくっていくという取り組みを進めている中で、地域の防災や生活環境という部分でも、地域の繋

がりというのは大切なものだと考えているため、自治会加入に関しては促進していきたい。

その他意見

- ・不妊治療であったり、子どもが病気の時であったり、休める制度と休みやすい雰囲気を作っていく事が大切だと思う。
- ・就職活動について若い人はネットを使う人が多く、ハローワークを利用する人は高齢者が多い傾向にある。高齢者でも元気な方も多いので、企業にも積極的な採用をお願いできればと思う。また、ハローワークと福祉総合相談センターは同じ建物内になるので、障がい者の求職活動について連携していければと思う。
- ・創業支援や企業誘致の取り組みを進めてもらっているが、後継者不足等による企業の廃業も増えているため、そちらの対策も重要だと思う。
- ・コロナ禍では密を避けるため出勤する職員を半分にする等の対応が必要であったため、サービスが低下した部分があり、その点でお叱りを受けることがあった。従業員数の少ない中小企業では、より大変な対応をしいられたのではないかと思う。そういった状況では住民・お客さんの理解も必要となってくると思う。
- ・様々な意見が聞けて、男女共同参画の取り組みもしっかりと進めていかなければと改めて思った。また、先進的な取組を行っている企業等に話を聞かせてもらいたい。

(4) 第2期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画改訂について

- ・事務局が示した計画改訂の方向性について異議なく、承認していただいた。